



国際医療福祉大学病院

循環器センター設立記念

循環器セミナー

循環器疾患に幅広く対応／県北悲願の診療体制実現

突然に心血管病を患ひ、
格差が大きい」と思います。
また栃木県民の所得は、
全国上位にありながら一人
当たりの医療費は、全国平
均を下回っています。この
ことは、働くまで働き、
地域医療質向上に寄与を

循環器疾患を発症した場合

県北在住の方が急性の循
環器疾患を発症した場合
「十分な治療を受けられな
い」と、県央の大学病院な
ど搬送されています。残
念ながら多くの患者は鬼怒
川を渡る前に亡くなっています。
県北県央、県南での医療
格差が大きい」と思います。
また栃木県民の所得は、
全国上位にありながら一人
当たりの医療費は、全国平
均を下回っています。この
ことは、働くまで働き、
地域医療質向上に寄与を

なっている方が多いことの
表れではないでしょうか。
このたびの「循環器センタ
ー」開設は、医師会とつ
ても非常にありがたいこと
です。循環器疾患治療が地
域で完結できる上、慢性の
心疾患者のコントロール
も可能になり死亡率の低下
につながると思います。

病院へのアクセスが肝心

性疾患が多いことにつきま
す。不安定狭心症、大動脈
解離、大動脈瘤などいずれ
も緊急手術を要します。急
性大動脈解離は、発症15分
以内の死亡率が20%、24時
間以内で40%、1週間では
70%と時間経過とともにリ
スクが増大します。

心臓手術が可能な施設へ
のアクセスの善しあしかが肝
心ですが、県内には心臓血
管外科は4施設しかなく、
他県と比べても少ない状況
です。さらに県北地域には

講演①

那須都市医師会会長

江部 寛氏

栃木県北地域の
循環器医療の現状と
当院に期待すること

講演②

自治医科大学
心臓血管外科学
部門 教授

川人 宏次氏

栃木県の
心臓外科医療の
現況について

講演③

国際医療福祉大学病院教授
循環器センター長

柴 信行氏

「循環器センター」は今
年9月に完成。それまでは
「循環器内科」「心臓血管
外科」の2科のみでしたが、
今回のセンター開設に合
わせ、3人の心臓外科医を招
き、「心臓外科」と「血管外
科」を設けました。

最新機器と優しさで対応

新の循環器治療機器をそろ
え、最善の治療を進めてい
きます。カテーテル検査に
おける血管造影の機械、解
像度の高いCT、MRIを
備えています。今後徐々に
バイパス術、弁置換術、ス
テンシオグラフトを使った治
療なども進めていきます。

私たちの守備範囲はあら
ゆる循環器疾患です。心筋
梗塞、心不全、不整脈、心
臓弁膜症など懸念される方
は気軽に相談してくださ
い。患者さんに優しく、安
心できる医療の提供に努め
てまいります。

特別講演

長寿のための心血管病の知識

東北大学循環器内科教授

下川 宏明氏

日本は既に超高齢社会に入
っています。そうした中での
心血管病対策の重要性、およ
び先進の医療についてお話し
します。世界最長寿国を誇る
日本ですが、健康寿命は平均
寿命より6年ほど短く、その
ギャップは欧米諸国よりも
大きいとされています。高齢社会
は今後も続きます。これから
はいかに健康寿命を長く保つ
かが大切です。

心臓は起きているときも寝
ているときも血液を運ぶけな
げな臓器。どんなにいい脳細
胞、臓器を持っていても血液
が来なければおしまいです。

そういった意味で心血管病はま
さに体のライフラインです。
日本人の死因の1位はがん
ですが、胃や肺などを全部の部
位を合わせた順位であり、一
つの臓器で人間を死に至ら
せるという点では心疾患が1
位です。その中でも約半分が、
狭窄症や心筋梗塞などの虚血
性心疾患です。心臓の表面の
3本の冠動脈が硬化すると狭
心症や心筋梗塞になります。

加齢による動脈硬化は止める
ことができませんが、血管が
異常にほど詰まつたり破裂し
筋梗塞のリスクも高まりま
す。日本人の食生活は欧米化
などが進み、小学生的コレス
テロールレベルは高い状況に
あります。その子どもたちが
中高年になる頃には今以上に
心筋梗塞が増えると懸念され
ています。現在、長寿を誇る

日本ですが、それは戦中、戦
後の方々が長寿であるわけ
で、今の子どもたちが「必ず
たしするようなことは、危険
因子を抑えることで防げま
す。高血圧、高脂血症、肥満
など食生活がよいのか。脂質
を抑えることに加え、魚に含
まれる多価不飽和脂肪酸のE
PA（エイコサヘキサエン酸）
が大きくなり、悪玉コレステロ
ールが増え、善玉が減ると心
臓病は高脂血症による影
響が大きくなり、悪玉コレステロ
ールが増え、善玉が減ると心
臓病のリスクも高まりま
す。

心臓病は高脂血症による影
響が大きくなり、悪玉コレステロ
ールが増え、善玉が減ると心
臓病のリスクも高まりま
す。日本人の死因の1位はがん
ですが、胃や肺などを全部の部
位を合わせた順位であり、一
つの臓器で人間を死に至ら
せるという点では心疾患が1
位です。その中でも約半分が、
狭窄症や心筋梗塞などの虚血
性心疾患です。心臓の表面の
3本の冠動脈が硬化すると狭
心症や心筋梗塞になります。

加齢による動脈硬化は止める
ことができませんが、血管が
異常にほど詰まつたり破裂し
筋梗塞のリスクも高まりま
す。日本人の食生活は欧米化
などが進み、小学生的コレス
テロールレベルは高い状況に
あります。その子どもたちが
中高年になる頃には今以上に
心筋梗塞が増えると懸念され
ています。現在、長寿を誇る

日本ですが、それは戦中、戦
後の方々が長寿であるわけ
で、今の子どもたちが「必ず
たしするようなことは、危険
因子を抑えることで防げま
す。高血圧、高脂血症、肥満
など食生活がよいのか。脂質
を抑えることに加え、魚に含
まれる多価不飽和脂肪酸のE
PA（エイコサヘキサエン酸）
が大きくなり、悪玉コレステロ
ールが増え、善玉が減ると心
臓病は高脂血症による影
響が大きくなり、悪玉コレステロ
ールが増え、善玉が減ると心
臓病のリスクも高まりま
す。

心臓病は高脂血症による影
響が大きくなり、悪玉コレステロ
ールが増え、善玉が減ると心
臓病のリスクも高まりま
す。

国際医療福祉大学病院（那須塩原市井口）の
「循環器セミナー」が10月28日、同病院B棟・
講堂で開催された。県北で初めて総合的な循環
器疾患の診療を可能にした「循環器センター」
の設立を記念し、東北大学循環器内科の下川宏
明教授らを招き講演を行った。シンポジウムで
は栃木県における循環器疾患の現状と今後の課
題などについて議論。会場には370人の市民が
参加、同センター設立の意義などについて認識
を深めた。（企画・制作 下野新聞社営業局）

主催者あいさつ

蘇原 泰則 氏
そはらやすのり
國際医療福祉大学病院院長
私どもの病院は1998（平成
10）年、国際医療福祉病院として
病床数100床でスタートしました
。2007年には国際医療福祉
大学の附属病院となり、現在は3

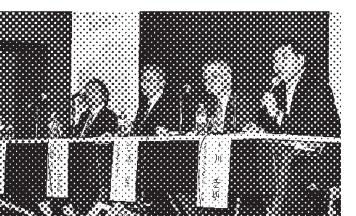
53床、医師は非常勤含めて15
人、看護師200人を数え、1
日の外来患者数は900人を超
える県北最大級の病院となっています
。私もは、常に地域の皆さまの
期待に沿いたいと努力しております
。このたび「循環器センター」
を開設しました。同センターは循
環器内科」「心臓外科」「血管外
科」の3つの部からなり高血圧、
心不全、弁膜疾患、冠動脈疾患、
大動脈疾患などさまざまな循環器
疾患の治療が可能となりました。
そのお披露目も兼ねてセミナーを
開催させていただきました。

蘇原 泰則 氏
そはらやすのり
國際医療福祉大学病院院長

シンボシウム
「栃木県北地域の
循環器医療について」

川人 アクセスのよい病
院で24時間受け付けてもら
えることが重要。「遠くの
病院より、近くの病院で
の質を上げるポイントだと
思います。そこが、救命率アップ
など患者さんのための治療
の質を上げるポイントだと
思います。

江部 県北には、那須赤
十字病院、那須野が原菅間
病院とカステヘルムを使つ
てもらいましょう。かかり
つけ医でもいいので、ます
は相談することです。



蘇原 やはり、地域完結
型の診療体制が大切という
ことです。最後に下川先生
からお願いします。

蘇原 やはり、地域完結
型の診療体制が大切という
ことです。最後に下川先生
からお願いします。